

研究テーマ ●暴力被害の修復のモデル開発と社会実装

臨床心理学研究科・臨床心理学専攻

特任講師

二宮 幸大

URL <https://cp.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/>

研究の背景および目的

ハラスメントを含め、暴力被害に遭うと、被害者は非常に多くの健康リソースを失います。そこからの回復には、被害以前にもっていたリソース以上のものが必要とも言われています。しかし、周囲の関係者、所属する組織やコミュニティ、国や社会といった多水準からの支援は不十分あるいは、再被害をもたらすことも少なくなく、量的にも質的にも改善が求められています。被害者の回復を促進・阻害する要因を明らかにし、暴力被害を修復する社会資源を増やすための研究を行っています。

■おもな研究内容

1. 暴力被害者を対象としたオンライン・コミュニティにおける心理援助

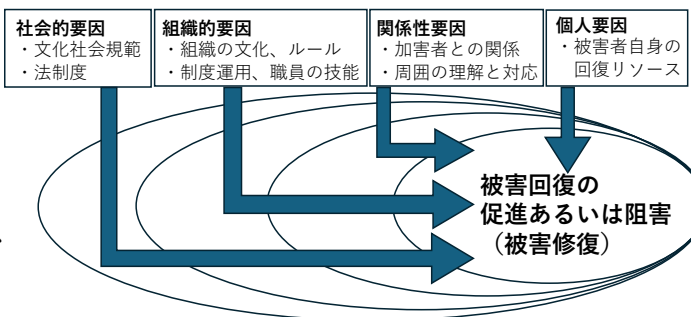
暴力被害や複雑性心的外傷後ストレス障害（複雑性PTSD）の当事者の中には、重い症状のために頻繁に外出することが難しく、SNSを通じて人との交流や回復に役立つ情報を得ている人がいます。しかし、SNSはオープンな場であることから、二次被害を受け、さらに傷つけられることも少なくありません。そこで、より安全に他者との関わりや有益な情報が得られる場所として、当事者中心のクローズドなオンラインコミュニティを立ち上げ、当事者同士のピアサポートや、トラウマからの回復に関する勉強会、読書会を通じた心理援助を行っています。

2. 暴力被害者の回復のための社会資源構築、社会・文化変容のための研究 および

3. 日本の大学文化に根ざしたハラスメント被害修復モデルの開発

ハラスメントや暴力の被害を受けた個人への心理支援を行っていると、利用できる資源や制度の不備、他の支援者や支援機関の理解不足、文化的規範や偏見といった環境要因が回復の障壁となることがしばしばあります。

これに対して私は、エコロジカル・モデルに基づき、被害者を取り巻く社会文化的状況も踏まえつつ、暴力の防止・修復に関する様々な領域の先行研究を整理し、利用者にとって、より効果的かつ安全な支援や制度の設計・運用のあり方について検討しています。被害修復の促進・阻害をめぐるエコロジカル・モデル



期待される効果・応用分野

非常に息の長い研究となると予想されますが、この過程で得られた知見は、①ハラスメントや暴力の被害への相談対応に関する実務や制度の改善と、②支援の専門家でない一般の人々が暴力の影響からの回復を支えるためにできることについての知識の普及（研修や啓発教育）を通して、③暴力が起きにくく、被害にあった場合でも、社会・コミュニティが回復を十分に支える環境や文化作りに役立つことが期待されます。

■共同研究・特許などアピールポイント

- 児童期虐待や性暴力、DV等の身近な人からの暴力の影響が長期間続く方を支援する中で、周囲の関わりや支援制度の課題について考えています。
- 大学でハラスメント予防研修講師を務めた経験があります。

コーディネーターから一言

ハラスメントに関するカウンセリング等現場での経験も豊富で、企業、自治体、教育機関等でのコンサルタント、セミナー講師もご対応いただけます。

研究分野 臨床心理学、暴力被害者の支援、分析心理学

キーワード ハラスメント、二次被害、エコロジカル・モデル、社会正義、伝わらないこと